

科目名	公民 I Civics I			担当教員	山岡健次郎			
学 年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	14220016	単位区別	履修	
学習目標	自己と社会との関係性を倫理的観点から考察していく。そのさい、「他者」や「自然」や「科学」といった問題性に着目する。過去の哲学者・思想家の思索に具体的に触れることで、最終的に自分自身で考える力を養うことを目指す。							
進め方	教科書および担当教員の作成する資料をもとにして、講義形式で進める。 テーマを設定し、討論も交えながら、倫理的問題に対する視角を深めていく。 なお、定期試験のほかに適宜レポートなどの課題も課していく。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. 「倫理」とは (2) 2. <わたし>とは何か (3) 3. 身体と性 (2) 4. 障害を捉え直す (2) 5. 死について (2) 6. 私たちの生きる社会 (2) 7. 変貌する家族 (2) ----- [前期中間試験] (1)			倫理社会で何を学ぶのかを理解する。 自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる。 A1:3				
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 情報社会の中で (2) 10. 社会との関わりの中で (2) 11. 生命倫理に関して (2) 12. 命の意味 (2) 13. 環境倫理を考える (2) 14. 伝統の継承と発展 (1) 15. 共存する社会 (3) ----- 前期末試験			現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する。 A1:1,2 A3:1,2				
	16. 答案返却・解答 (1) 17. ギリシャ人の人間観 (2) 18. キリスト教の展開 (3) 19. インドの思想の展開 (2) 20. 仏教の思想 (2) 21. 日本の伝統思想と民衆の思想 (2) 22. 西洋科学の受容と近代への準備 (3) ----- [後期中間試験] (2)			古代宗教に対する理解を深める。 A3:1,2 「日本」という思想的土壌の特質を知る。 A3:1				
	23. 答案返却・解答 (1) 24. ソクラテス、プラトン (2) 25. アリストテレス (3) 26. 近代の幕開け (2) 27. デカルトと科学革命 (3) 28. カントの認識論 (2) 29. 実存主義をめぐって (1) ----- 後期末試験			哲学の発生と変遷をたどる。 A3:2 善く生きることの意義について考察する。 A3:1 近代科学の誕生に立ち会う。 A3:1				
	30. 答案返却・解答 (1)							
	評価方法	定期試験 (80%)、提出物 (20%) によって評価						
	履修要件	特になし						
	関連科目	歴史・地理 (1 学年) → 歴史 (2 学年) → 公民 II (3 学年)						
	教 材	教科書：『倫理』東京書籍						
備 考	特になし							